

第 18 回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

緩和ケアセンター事務局

平成 30 年 12 月 27 日（木）に、第 18 回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部附属病院新中央診療棟 1 階多目的室 1 で開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、院内外の医師、看護師、心理士など参加され合計 27 名の参加者となりました。

当院の腫瘍センター副センター長吉野茂文医師より開会の挨拶があり、当院の緩和ケアセンター宮内貴子副看護師長を司会として、各施設より事例提示があった後、グループ形式で討議を行いました。

事例：「治療継続を希望していたが在宅緩和ケア導入により最後まで家で過ごせた尿管がん事例」

山口大学医学部附属病院 泌尿器科 松村 正文先生
山口大学医学部附属病院 看護部 多賀谷 理子先生
宇部協立病院 地域連携在宅医療科 立石 彰男先生
三隅 恵美先生

グループ討議では、様々な視点から活発に意見が出され、参加者の方々からは、「病棟側からは見えない患者さんやご家族の思いが知れた。他のスタッフの方の知識や関わり方など学べてよかった」、「患者、家族には常に気持ちの変化があり、それに気づき、気持ちに寄り添った介入をしていきたいと感じた」、「病院と在宅医療の連携が深まればと思いました」

などの意見が寄せられ有意義な検討会となりました。

この度は、様々な職種の方々に検討会に御参加して頂き、誠にありがとうございます。本検討会は、今後も継続して行う予定ですので皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。



